

令和5年度 新得町決算審査報告

財政健全化、地域課題、そして未来への投資

決算特別委員会：審査対象 一般会計・特別会計

日付：令和6年9月13日

町政ハイライト：現状と課題

● 財政健全化

+7,267万円

実質収支（黒字）

財政指標はすべて「マイナス」表示。これは町が借金過多ではなく、健全な黒字状態であることを示す。

● 行政運営・委託

構造的人手不足

業務委託の課題

民間委託事業において、労働力不足により受託者が確保できないリスクが顕在化。定年後人材の活用も限界に。

● 鳥獣被害・環境

1,046頭

エゾシカ駆除数（過去最多）

野生動物による被害が拡大中。農作物への影響だけでなく、駆除活動の負担も過去最大レベルに達している。

健全な財政基盤と債務の解消

一般会計 実質収支

7,267万2千円



経常収支比率：80.5%
(前年比 1.2ポイント改善)

株式会社サホロ酒造 債権管理について

令和6年度をもって貸付金の
返済が完了。

完済
(令和6年度末)

※ 今後の施設利活用については現在交渉中

委託事業の危機：人手不足への対応

議会の懸念

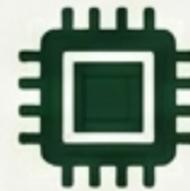


「定年後の人材も不足しており、委託先が確保できない恐れがある。行政サービスが維持できるのか？」

町の対応策



単年度契約から
「3年間の長期契約」へ
(雇用の安定化)



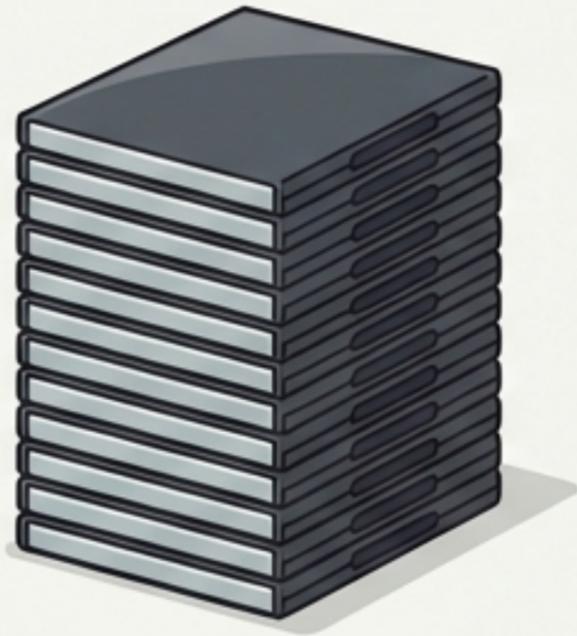
DX・AIの活用による省人化



外国人人材の受入検討

広報のあり方：物理メディアからデジタル発信へ

記録保存（アーカイブ）



DVD作成委託料: 3年間で約147万円

歴史的記録としての価値を重視し継続。

デジタル投資・内製化

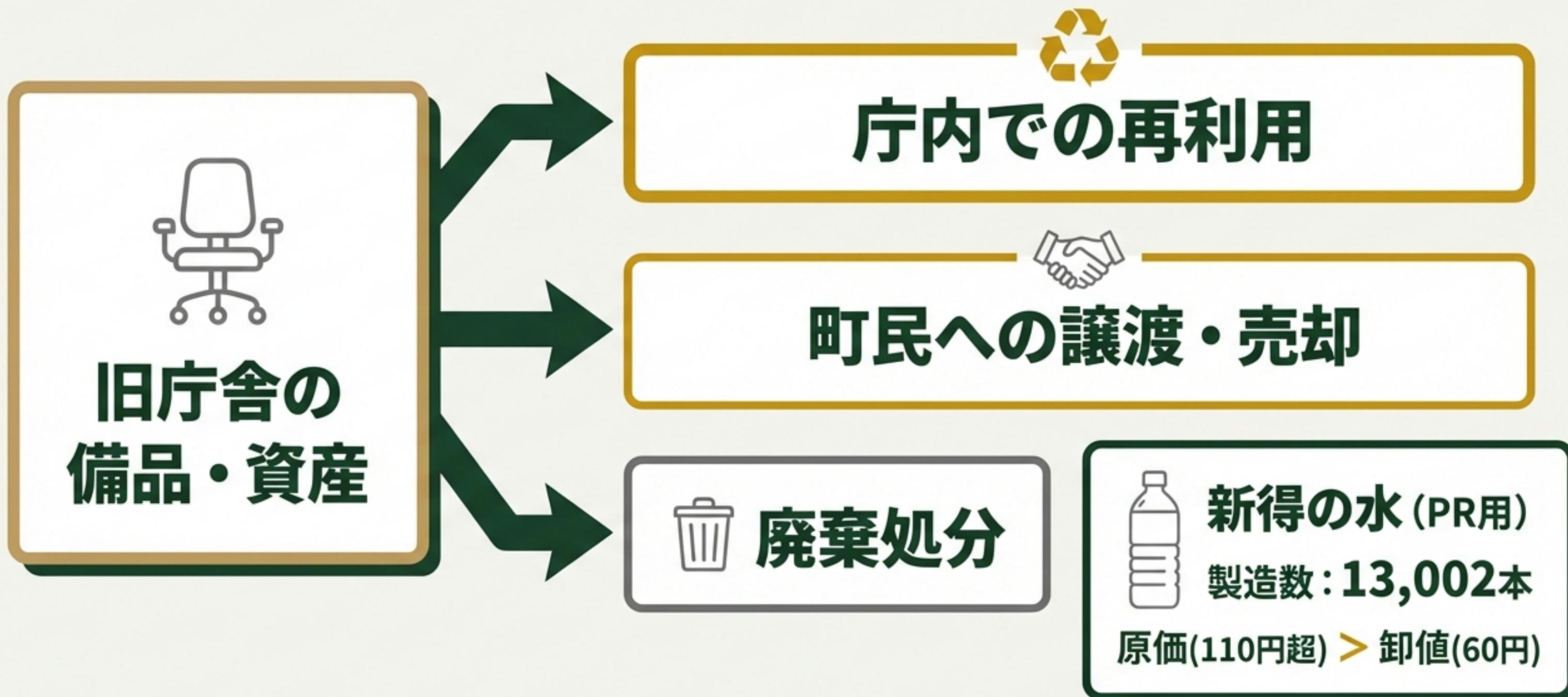


高スペックMac 2台導入

外部委託費を削減し、職員による内製化を推進。

「新得音頭」などのYouTube活用を強化し、若年層へリーチ。

新庁舎への移行と資産マネジメント



利益目的ではなく、「広告宣伝費」としての投資と位置付け。

防災体制：備蓄と避難所の再定義



災害備蓄品の活用ルール変更

従来：「期限切れ」→「廃棄」



今後：「期限1年前」→
「福祉・教育現場へ配布・活用」

高齢者福祉：敬老祝金と生活支援

議会の指摘：「88歳から100歳の間が長すぎる」
90歳、95歳などの節目設定を要望 → 予算バランスを考慮し検討中



成年後見支援（S-KET）

現在3件受任。3年後の組織的自立を目指す。

移住定住：定住から「関係人口」へ



ハードルが高い完全移住への転換は困難。



- 新規建設はしない（既存ストック活用）
- ホテル・駅・新庁舎でのコワーキング
- 「住む」ではなく「関わる」人口を増やす

空き家対策と地域経済の循環

町内空き家数

164件

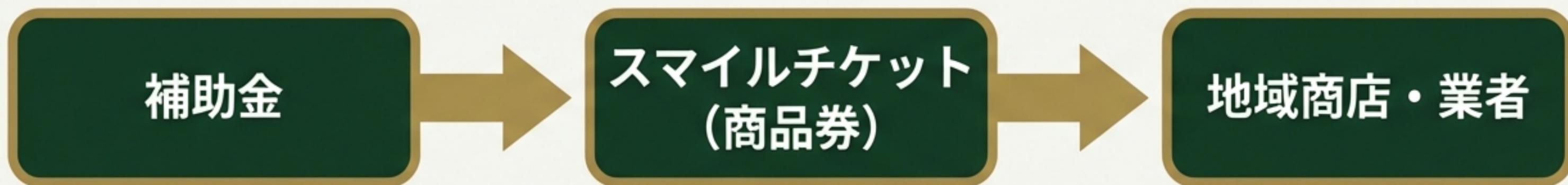
解体補助実績

10件

上限70万円へ引上げ

改修・賃貸

5件



補助金は現金ではなく商品券で支給し、町内経済への還流を徹底。

環境衛生：不法投棄対策と美化活動



不法投棄の現状

通報2件（潜在的には多数）。警察と連携し、証拠品（レシート等）から投棄者を特定する取り組みを強化。



地域力による解決

ボランティア袋の無償配布。春先の雪解け時期に合わせて、地域団体による清掃活動を支援。

農業支援：「孫の手」事業と次世代育成

「孫の手」事業
(環境整備)



21件採択

国の事業から漏れるニッチなニーズ（舗装、解体、LED化）をカバー。需要高。

次世代農業者支援



4件支援

内訳：椎茸、羊、酪農。
新規就農を金銭面でバックアップ。

レディースファーム

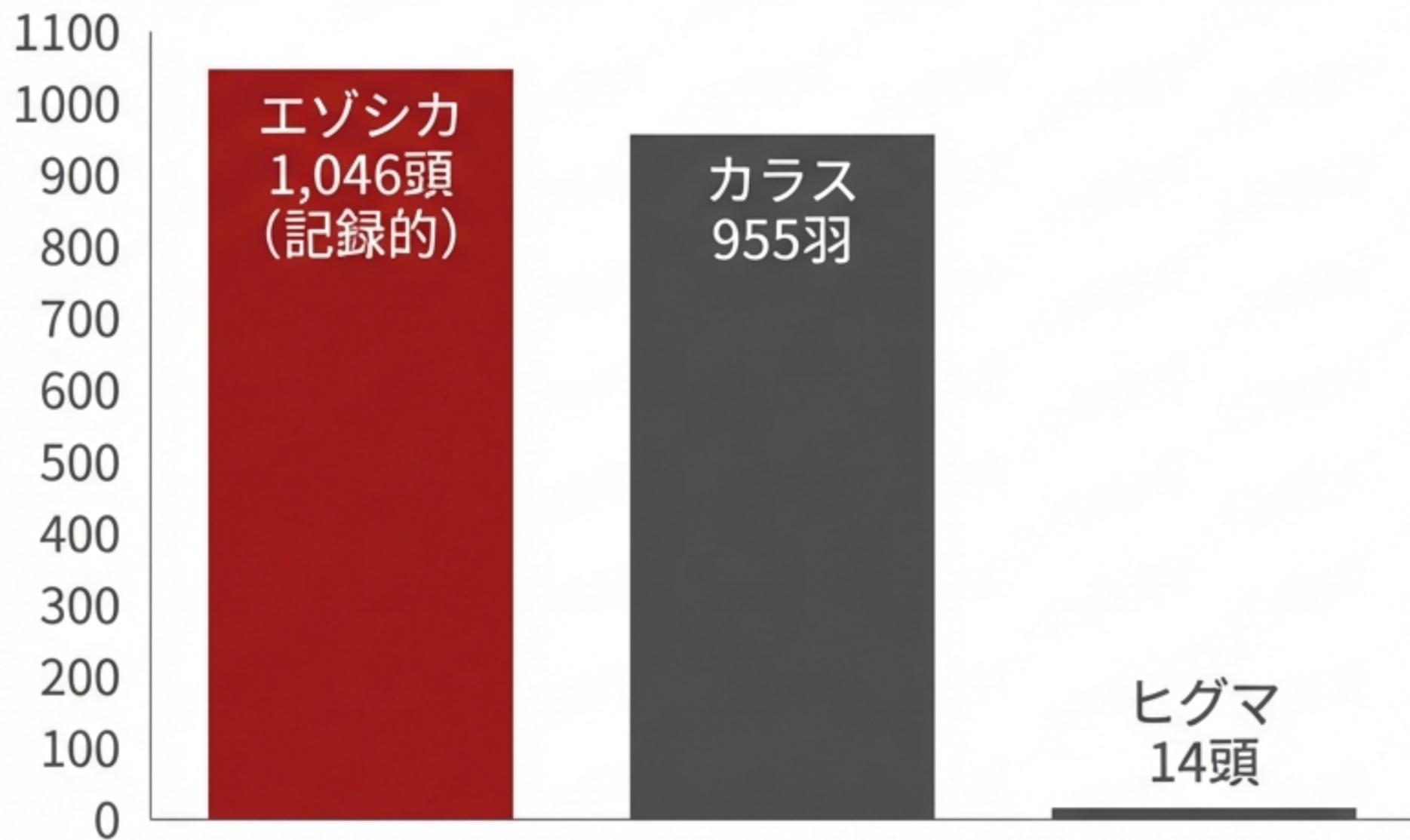


定員割れ

カリキュラムの現代化（水耕栽培・ハイテク農業）を検討し、若年層への訴求を図る。

鳥獣被害：記録的なシカ駆除数と新たな脅威

R5 鳥獣駆除数比較



新たな脅威：野ウサギ

大豆・ブロッコリーへの食害報告あり。現在調査段階（補償制度なし）。

総括：持続可能な新得町へ向けて

FINANCE



財政は健全。大型事業後の公債費管理を徹底し、黒字基調を維持する。

POPULATION



「定住」への拘りを捨て、関係人口と既存ストック（空き家・ホテル）を最大活用する。

OPERATIONS



最大の課題は「人」。DXと制度改革で、労働力不足の時代を乗り越える。

令和5年度 決算審査 終了